

令和6年度

いのち・愛・ゆめセンター（豊川・沢良宜・総持寺）における事業概要

【概要】

令和6年度は、業務のスリム化と充実を同時に叶えることができた年となった。「おにも見にクルアート展事業」としては、会議の回数を半分に減らす等事業準備時間を抑えつつ、かつ、前年よりも進化した展示内容を揃え、参加者に喜びと気付きを多く与えることができた。また、「多文化共生支援事業IMS(イムス)」としては、委託事業者の成長もあり、ネットワークを拡げ、「国際交流の集い」や「市外協の集い」にも夏・秋参加する等活動の幅を広げることができ、また、そのおかげで当事者サポーターを新たに加え、事業の魅力をもっと加えることができた。そして、総持寺の開館50周年記念として、愛センターのパンフレットのリニューアル及び3館の50周年を祝う記念誌の作成を行っているところである。各館ともに地域のニーズ（つぶやき）を拾い、趣向を凝らした事業の企画・運営をすることで、地域に親しまれ、頼ってもらえるセンターとして存在意義を保っている。

【取り組んだ主な事業内容】※新規事業や特記すべき事業を掲載

事業名	総合相談事業	おにも見にクルアート展	多文化共生支援事業IMS(イムス)
<p>内容</p>	<p>内容：センターの基幹事業である総合相談事業は、人権をはじめ、暮らしの中で生じる様々な相談に応じ、相談者に寄り添いながら、関係機関と連携し、課題解決に取り組んでいる。特に、複雑かつ複合的な課題を抱える相談事例がコロナ禍を契機として増えてきており、課題解決の長期化が課題であり、より一層の関係機関等との連携と伴走型支援の強化を図る必要がある。</p> <p>相談件数</p> <p>【豊川】 660件見込 前年度 679件</p> <p>【沢良宜】 530件見込 前年度 466件</p> <p>【総持寺】 500件見込 前年度 449件</p> <p>主な相談内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60代男性と子2人。それぞれ世帯は独立しているが、全員療育手帳を所有し、各人で生活しづらさを抱えている。 ・複雑な母子家庭で、課題のある3世代が絡みあい、常に見守りが必要。 ・障害者を含む複合世帯で、障害・ネグレクト・ひきこもり等複数の課題だけでなく、猫の多頭飼により住環境が悪化している。 	<p>内容：障害の有無、年齢、国籍等にとらわれず、個性あふれる作品を通じて、その作者や障害福祉サービス事業所の魅力を感じてもらえるようなアート・作品展を共催で実施した。</p> <p>開催場所：子育て・文化複合施設「おにクル」</p> <p>開催時期：12月3日～12月6日</p> <p>主な参加団体：人権・男女共生課（いのち・愛・ゆめセンター）、人権センター、障害福祉課、かしのき園、障害福祉センターハートフル、茨木市地域活動支援センター</p> <p>来場者数：延べ3,274人</p>  	<p>内容：地域共生支援の一環として、令和3年9月から外国人住民等を対象とした多文化共生支援事業を開始。IMS(Ibaraki Multicultural Space)と称し、日本語能力が十分でない外国人への交流の場と学びの機会の提供、地域における理解の醸成や居場所の創設、サポーターの育成等、多文化共生の推進に向けた取り組みを行った。</p> <p>具体的な事業としては、①Zoomを活用してのオンライン交流会「りっふるるーむ」、②対面での交流や居場所の提供としての「ツドイバ(TSU・DO・I・BA)」、③多文化共生推進を市民に広く周知・アピールするための機会として、立命館茨木キャンパスで開催されるアジアウィークで出展した。</p> <p>参加者数：りっふるるーむ 100人見込 (日本人含む) ツドイバ 370人見込 交流会①(アジアウィーク) 310人 交流会②(フェスタ他) 100人</p>  